

# サステナビリティ 報告書2017



Smart  
thinking  
for  
you

～ 次代へつなげる ～



株式会社 **エフコム**

ICTソリューションの提供を通じ、お客様のより良いビジネスパートナーとして、  
経済・環境・社会に積極的に貢献して参ります。

## INDEX 【目次】

■ トップメッセージ	03
■ 誌上座談会 “ワーク・ライフ・バランスに思う事”	04
■ デジタル革新で支えるサステナブル社会への取り組み	
(1) データセンターが貢献するサステナブル社会	06
① データセンターの紹介と環境負荷低減	06
② データセンターが高度に共助し貢献する 「FCAセンター相互応援コンソーシアム」について	08
③ データセンターが中核を担う「映像アーカイブクラウドサービス」	08
(2) 農業IoTで変化した花卉栽培	09
(3) 地域IoT：スマートグリッド通信インターフェース導入事業に参加	10
■ 社会（地域）貢献への取り組み	
(1) 「一般社団法人あいづ地域振興研究所」の設立と取組	11
(2) インターンシップ&中学生職場体験	11
(3) 「おもてなし認証」の取得	12
(4) アピオフェスティバルで模擬店参加（大好評！）	12
(5) 福島県民球団「福島ホープス」の応援	13
■ 人を活かす取り組み	
(1) 「働き方改革」始動	14
(2) 「K A I Z E N」活動	14
(3) 「F - B R A I N S」	15
(4) 衛生委員会活動	16
(5) 社員教育制度	17
(6) 資格取得状況	18
(7) 次世代育成支援企業の認証取得	19
■ 信頼への取り組み	
(1) 品質向上（ISO9001）への取り組み	20
(2) 情報セキュリティマネジメント（ISO27001）への取り組み	20
(3) ITサービスマネジメント（ISO20000）への取り組み	20
(4) 個人情報保護（Pマーク）への取り組み	21
(5) 当社の事業継続活動（BCPからBCMへの取り組み）	22
■ 環境保全への取り組み	
(1) 環境活動	23
(2) 2016年度環境活動実績	26
(3) 2017年度環境活動目標	27
(4) エフコムの森	28
■ エフコムのご紹介	
(1) 社内報	29
(2) テレビCM	29
■ ビジネスインフォメーション	30

# ■トツプメッセージ

エフコムはサステナブルな社会の発展に貢献してまいります。



2017年10月

株式会社エフコム  
代表取締役社長兼COO

瓜生利典

私どもエフコムは、次代に向けて環境負荷の低減を図るべく「環境マネジメントシステム (ISO14001)」を推進し、地球温暖化防止への活動を始め、環境保全、地域社会の安全など、社会貢献並びに社会の発展への活動を継続的かつ積極的に取り組んでおります。

## 【近未来のサステナブル社会】

昨今、過重労働の問題や労働人口の減少などの課題により、政府主導で「働き方改革」が唱えられ労働法の改正や労働生産性向上への各種課題への対応が急がれています。その改革の手段として、ICTの活用は不可欠な状況です。特に、AIやIoTの活用が浸透すると生産性の高い労働環境が創出され、働き方も様変わりするものと思われます。そのような近未来のサステナブル社会を想定し、当社は、新たな技術の習得とサービスの構築に、研鑽し尽力してまいります。

## 【データセンターによる社会貢献】

当社が保有しますデータセンターは、お客様の事業継続はもとより、省エネルギー化に貢献できる施設です。特に、2014年秋にオープンしました福島データセンターは、太陽光発電

や外気による冷却システムの導入など、自然エネルギーの活用を行い環境に配慮した施設であります。また、お客様の大切な情報をお預かりするために、高水準なセキュリティ対策を施しており、情報漏えいや不正侵入などが起きないように、ソフト・ハード両面で設備と体制を整えております。更に、BCP（事業継続計画）への訓練にも力を注ぎ、有事の際に迅速な対応ができるマネジメントシステムを構築しております。お客様への安心と満足を使命とし、引き続き愚直に取り組んでまいります。

## 【共生】

2016年6月、会津磐梯山の麓に山林を取得し「エフコムの森」と名付けました。森林の保全に取り組むことを通して、当社の社員や家族が気軽に自然と触れ合える場に、そして自然や生物との共生を体験できる場になるように育んでいきたいと思っております。

これらの活動を通して、「サステナブル（持続可能）な社会」の発展に貢献するため、より一層の社会的責任を果たしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

# サステナビリティ 誌上座談会



あなたにとっての  
ワーク・ライフ・バランス  
とは何ですか



エフコムグループにおいて、仕事に対する誇り・モチベーションを高め、健康でやりがいを感じられる仕事環境の確立を目指すべく「働き方改革推進会議」が立ち上がっています。そんな中、従業員個々の立場でワーク・ライフ・バランスについて意見を交わしていただきました。

## Q1. ワーク・ライフ・バランスと聞いて思う事、意識している事、実践している事は何ですか？

**伊藤** ワーク・ライフ・バランスという言葉そのものは意識していませんでしたが、現業部門に所属していた頃は帰りが遅い日が続き、殆ど家庭は妻に任せておりました。

そんな中、徐々に早く帰れた時に子供と遊ぶ事ができましたが、翌朝「今日は早く帰ってこれるの？」と聞かれ、「あ〜」と思いました。

それから子供との約束を守りたくて時間をコントロールするように意識しました。それがワーク・ライフ・バランスを意識した始まりです。



営業部  
伊藤さん

その時に意識したのがワーク・ライフ・バランスでした。それ以降は伊藤さんと同じで「今日はここまで！」と仕事を切り上げられるようになり、なるべく早く帰るようになり心がけました。



フィールドサービス部  
半澤さん

**大和田** やはり結婚して子供が生まれ会社に復帰する頃から意識し始めました。現在、子供は保育園にあずけて共働きをしています。例えば仕事中でも子供が体調を崩せば保育園から電話がかかってきて、「迎えにきて下さい」となります。

職場復帰してから仕事の内容が変わり覚えることも多く、まだ十分こなせていない中で、職場を途中で抜けるのはとても心苦しい思いがあります。

子供を保育園に迎えに行ってから家に帰ると今度は家事との戦いが始まります。夫は比較的帰りが遅いので、なんとなく「自分が休んでいる時はいつなの？」と考えてしまいます。そんな時に自分のワーク・ライフ・バランスは何だろうと思いました。

**半澤** ワーク・ライフ・バランスという言葉は今年の春頃から意識し始めました。入社して直ぐに結婚し間もなく子供も生まれました。仕事も覚える必要があり、子供は完全に妻に任せきりで、ある意味好きだけガムシャラに仕事をしていました。そんな時にある事がきっかけで、妻と長い時間をかけて十分に話をする機会が作れました。



営業推進部  
菊地さん

**水野** 私は入社一年目から意識していました。採用時の役員面接で「あなたは生活の中に仕事があるのか」「仕事の中に生活があるのか」と質問されたことがきっかけです。私が「生活の中に仕事があります」と答えると、役員も「そうだよね」と言ってくれた事をおぼえています。また、実家（農業）の手伝いもあり、さらに地元の消防団員でもあるので、ワーク・ライフ・バランスは早くから意識していました。

土日の休みを  
家族に使うか？  
農業に使うか？  
地元の活動(消防団等)に使うか？  
自分自身に使うか？

全部に使えば時間が足りなくなり、全てがおざなりになります。

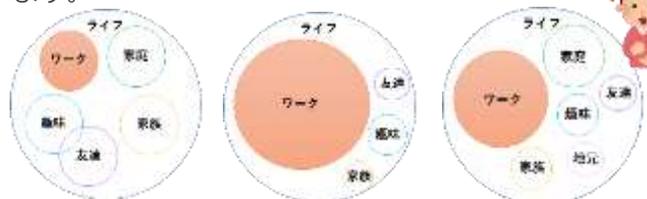


サブライセンター  
水野さん



例えば子供の学校行事は年に一回なので優先するとか、スタイルを絵にしてみると分かりやすくなるし、自分自身でバランスが取れているのかも判断しやすいと思います。この大きさ（バランス）が崩れていくと、相互のスタイルに支障が出始めますし、修復は意外と難しいです。

バランスは当然ながら置かれている立場、年齢に応じて変えていかないとそれも支障をきたす要因になると思います。



スタイルが均等な人      ワーク中心な人      水野さんのバランス



プライベートの変化がきっかけで考えるはじめる事が多いみたいだね。みんなは考えたことある？

**伊藤** 以前に「生活のために仕事をしなさい」と言われてから気持ちが楽になり、仕事は生活のツールと捉えるようになりました。理想は4（仕事）：6（生活）ですが、実際は6（仕事）：4（生活）でバランスが保たれていません。



しかし、自分でそれを認識しているので、家族に感謝の言葉をかける事でバランスを保っています。

**水野** かけたい熱量とかけられる熱量は違ってきます。子供が小さい時は必然的に熱量が大きくなりますが、成長と共に小さくなりその分、別のスタイルに熱量をかけられます。大黒柱として、現在は6（仕事）：4（生活他）です。



皆さん、努力していますね 素敵です！

## Q2. あなたのワーク・ライフ・バランスは実現できていますか？

**菊地** やはり子供中心の生活になります。夫もやや仕事が不規則なので「私が全てやらなきゃ」との思いが強いです。しかし、会社に来ると子供の事を忘れる事ができるし、表現が難しいですが自分の時間を持てるのでバランスは丁度良いと思っています。



**半澤** 自分の理想のスタイルやバランスは手探り中です。入社4年目で子供1人。もう少しで2人目が生まれようとしている中で、なかなか難しいです。6（仕事）：4（生活）？

**大和田** 前述しましたが、仕事の内容が変わった事で、新しい仕事を覚えている最中です。子供の事で急に早退しなければならない事態もあり、そういう中で頼られる事はないのかなと思うと仕事に対する意欲が変化しました。でも、仕事をしている事で社会と繋がっていられるのでバランスは取れています。



## Q3. あなたのワーク・ライフ・バランスを実現するために何が必要ですか？

**菊地** あと1時間で退社という時に保育園から「迎えに来て下さい」と電話がきます。やはりすぐにいかなければなりません。



こういう場合に時間休があると良いと思います。また、アンバーサリー休暇も考えて欲しいです。

**半澤** アンバーサリー休暇、企業内保育所があると嬉しいですね。

**伊藤** 月に一回は休みを必ず取る制度。また、昼休みを余計に30分伸ばして生産性をあげるような工夫はできないでしょうか。30分余計にあると市役所や銀行へも行けるので生活スタイルを変えられる。



**大和田** 私も時間休に賛成です。

**水野** 創立記念日に会社全体で休むとか、午前中勤務で午後は職場の仲間とのレクリエーションを楽しむのもいいですね。



個人の努力と会社のサポートの2つが必要なのかも。みんなも自分の働き方を振返ってみよう！



# デジタル革新で支えるサステナブル社会への取り組み

## (1) データセンターが貢献するサステナブル社会

### ① データセンターの紹介と環境負荷低減

福島データセンターは CO<sub>2</sub> 排出量を抑制し環境への負荷軽減を図るために、電力消費量を抑える取り組みを実施しています。

データセンターの消費電力の約 3 割はサーバの排熱を処理する冷却に使用されるのが通説となっており、いかに冷却効率を高めるかが消費電力を抑えるポイントとなっています。福島データセンターはサーバの排熱を完全に密閉し排熱だけを冷却する H A C S (Hot Aisle Containment System) を導入し冷却範囲を局所化する事により冷却効率を高めています。合わせて D C I M (Data Center Infrastructure Management) との組み合わせにより、排熱量により空調ファンの回転数を最適に制御する仕組みや水冷式空調機の導入で消費電力を削減する仕組みも導入しています。寒冷地のロケーションを活かし空調機の冷媒を外気で冷却するフリークーリングシステム、太陽光発電の活用、敷地の緑化など様々な取り組みにより環境負荷の低減に取り組んでいます。

### 【福島データセンター概要】



- 立地：福島市、敷地面積 (9,614m<sup>2</sup>)
- 建屋：3階建て、免震、延床面積 (3,216m<sup>2</sup>)
- 設備：高規格仕様 (高い「信頼性・安全性・可用性」)  
J-Tier 3 完全準拠
- 環境：再生可能エネルギー採用、省エネ設備

#### <主な認証>

- ・ ISO / IEC 27001
- ・ ISO / IEC 20000-1 : 2011
- ・ ISO / 14001
- ・ プライバシーマーク
- ・ FISC 安全対策基準 (設備基準)
- ・ LGWAN-ASP ファシリテーターサービス登録事業所

#### 太陽光発電



太陽光発電をサーバールームで消費

#### HACSシステム

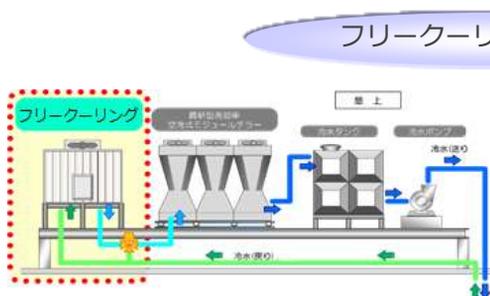


水冷式空調を採用しホットアイルを完全密閉したモジュール型ラックを採用

電力コストは、お客様の負担にもつながります。  
高効率な空調機とフリークーリングの活用により、  
環境にも、お客様のビジネスにも  
やさしいデータセンター、それが福島データセンターです。

## 排熱の封じ込みとフリークーリングで、 高効率で自然環境にやさしい冷却システムを実現

自然環境にやさしいデータセンターを実現するため、東北地方の寒冷な気候を生かしたフリークーリングや太陽光発電などを取り入れてます。自然エネルギーを最大限に活用することで、CO<sub>2</sub> 排出を可能な限り削減しています。データセンター全体の電力消費量の中で冷却の消費電力量は大きな割合を占めます。そこで、高効率な冷却システムを導入することで電力効率としては、PUE 1.3 を目標に排熱の封じ込めと水冷式空調機を採用しました。



**フリークーリング**(Free Cooling)とは、外気温度の低い中間期、冬期に冷却塔で水冷媒を外気使い冷却。その後チラーで電気を使い定格温度まで冷却することから大きな省エネルギー効果が期待されます。

## ②データセンターが高度に共助し貢献する 「FCAセンター相互応援コンソーシアム」について

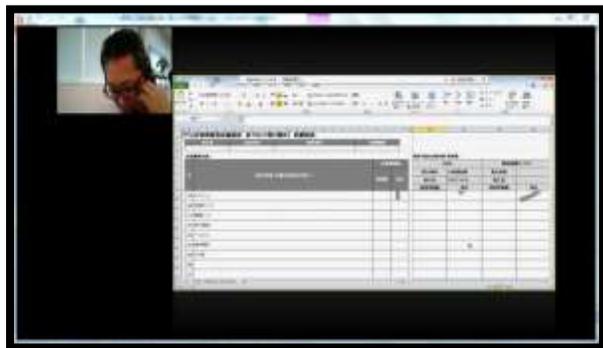
2016年7月に災害時相互応援協定をより発展させた「FCAセンター相互応援コンソーシアム」がFCA会員企業42社により発足し、引き続きエフコムも加盟しました。

コンソーシアムは日本列島を東ブロック、中ブロック、西ブロックと三分割し各ブロック単位での活動及び全体活動を通して災害時に備え取り組みを実施しています。エフコムが加盟する東ブロックは2017年4月28日に大水害を想定した訓練を実施し、東ブロック長として訓練の骨子検討から参加し訓練を主導的立場で推進しました。

コンソーシアムでは、2017年9月5日に首都直下型地震を想定した訓練を実施し、当社は東ブロック長として、参加各社の取り纏めとブロック会議の開催等、コンソーシアムの活動が円滑に進む様取り組んでいます。

また、新たな試みとして実施された、災害対応ゲーム「クロスロード」にも参加し、常日頃のBCP活動のボトムアップに取り組んでいます。

### Lync会議によるブロック会議の様子



### 災害対応ゲーム「クロスロード」による グループワーク



### ③データセンターが中核を担う「映像アーカイブクラウドサービス」

#### クラウドCMSサービス (ImageLagoon)

##### [サービス概要]

お客様が従来ハードディスク等に保存していた高解像度の映像データを福島データセンターが提供する ImageLagoon を利用することで安全安心に管理出来る機能と映像データを流通する機能をクラウドサービスで提供しています。

##### [特徴]

- 4K, 8Kの高解像度データと付随するメタデータを管理
- オンライン、ニアライン、オフラインによるデータ管理を行い半永久的なデータ管理が可能
- ユーザ専用のアップローダ、ダウンローダを提供し高速なデータ流通を実現  
テキスト検索により、画像データやシーンの検索が可能
- 必要な部分だけをダウンロードできるシーンカット機能搭載



#### 映像メディアアーカイブサービス

##### [サービス概要]

映像メディアアーカイブサービスは会津データセンターで約24,000本/年、福島データセンターで約6,000本/年のVTRテープのファイル化、アーカイブを行うことが可能なラインが稼働しています。

お客様の貴重な映像記録を未来に残すためフィルム素材やテープ素材からデジタルデータに変換しファイル化するサービスを提供しています。

##### [特徴]

- 最先端データセンター内にファイル化業務設備を構築
- 報道支援システムのライブラリデータを読み込み素材を分割
- クラウドCMSサービス (ImageLagoon) でファイル化した映像素材の管理が可能



設備名	型式
HDCAM	HDW-F500
HDV	HVR-1500
Digital 8 CAM	DVW-A500
8 CAM	BVW-75
DVCPRO50	AJ-D060
DVCPRO50	AJ-S093
DVCPRO	AJ-D455
DVCAM	DSR-2000
D2	DVR-10
VHS	SVP-5600
1インチVTR	BVH3000
インジェスターWS	Panasonic
アーカイブWS	Panasonic

**ファイル変換処理能力**

※テープ率は3.0分にて計算

センター	月間処理能力	年間処理能力
会津データセンター	約5,000本	約60,000本
福島データセンター (2017年7月止)	約2,000本	約24,000本
計	約7,000本	約84,000本

2017年7月会津データセンターに独立メディアアーカイブ専用設備

## (2) 農業IoTで変化した花卉栽培

### IOT活用最前線



福島県会津若松市北会津町にありますシクラメン、カーネーション栽培を手掛ける農業法人ニヘイ様を訪問。  
みどりクラウド（ハウス内の温湿度・画像をクラウドで管理）を使用して一年が経過。活用状況について伺ってきました。訪問時は出荷間近かのシクラメンでハウスがいっぱいでした。



鉢に温湿度センサーを差している

**見える化の実現**：鉢内の温度と湿度（乾き方）がリアルタイムで把握できる事が大変ありがたい。葉が小さい間は水を吸う量も少ないので4～5日に1回で良いが、成長と共に吸う量も多くなってきます。

その変化の見極めが大事なんです、状況をパットとリアルタイムで見れるので、どういうふうに乾いていて、何日おきに水をやればいいのかの判断が視覚的にできるので大変助かっています。

**閾値設定**：寒くなると暖房器具を使い温度を上げてやる必要があります。  
設定温度になると自動点火がされますが、無着火という事があります。  
火が点火しないという事です。

このクラウドでは閾（しきい）値を設定しその範囲以外になると警報メールで通知をしてくれるので、暖房器具の不具合発見の対策にもなっている。  
気温が下がり続けると商品価値を損ないますので、警報とともに駆けつけ点検の対応ができるという事にも役立っています。

**セキュリティ管理**：ハウス内を開けっ放しにしておく場合があります。そうすると興味からお客様が入り込んでくる場合があります。

カメラ機能でハウス内の様子を見ることができますので防犯面でも助かっています。



奥にあるのが暖房器具。真ん中にあるのがみどりクラウド本体



スマートフォンからハウス内の状況をリアルタイムで把握



取材に答えていただきました鈴木様  
みどりクラウドの前で



### (3) 地域IoT: スマートグリッド通信インターフェース導入事業に参加

#### ◆ HEMSの導入・情報管理事業者とのデータ連携

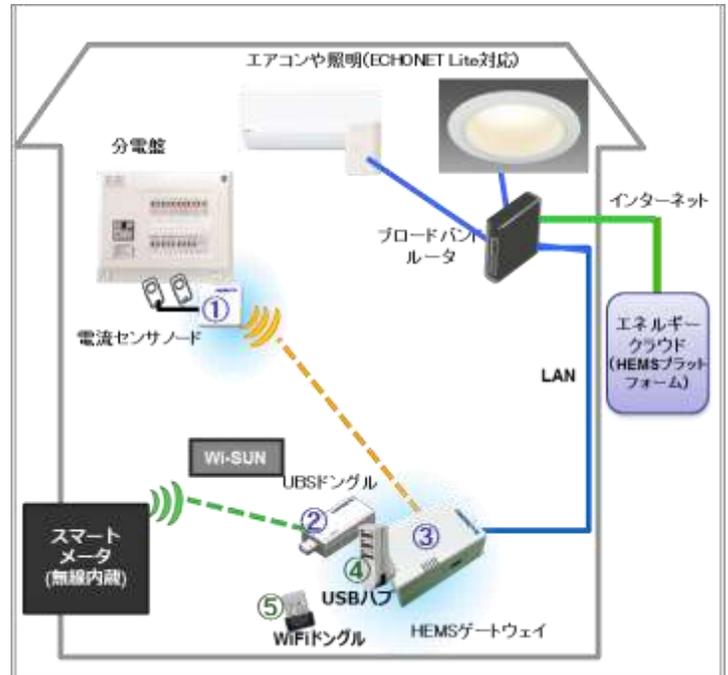
会津地域500世帯を対象にHEMS端末を設置し、地域プラットフォームを通じ各家庭の電力情報及び付随する情報を個人同意の元、収集・管理し、情報管理事業者への情報連携実施。

#### ◆ サービスモデルの実証

当該事業者及びHEMSデータ利活用事業者と協業し、収集したデータを元にした利用者向けのデータ活用サービスの実証を行い、エネルギーデータを活用した新しいサービス・産業創出。

#### ◆ 事業後の検討

本事業において定義される標準化・プライバシー情報の取り扱い指針や実証結果を受け、今後の地域サービス拡大に向けた事業検討を実施し、事業終了後も継続した事業が行える環境を創出。



ICTと人が、

ますます密接になっていく中で、

より便利で快適な社会の仕組みを考えるために、

エフコムは始めています。



# ■ 社会（地域）貢献への取り組み

## （１）「一般社団法人あいづ地域振興研究所」の設立と活動

2017年7月、会津地域を中心に福島県の地域振興を図るため、会津地域の企業及び富士通株式会社様との協業により、福島県河沼郡柳津町に一般社団法人を設立しました。

国内における少子高齢化が進む中、それに加えて、福島県は震災と原発事故の影響という大きな課題を抱えており、未だに風評被害による地域経済への多大なる影響を及ぼしています。当該法人では、これらの地域課題を解決する手段として、ICT（情報通信技術）を積極的に活用することで、地域振興と経済好循環の確立に寄与していきたいと考えています。

### 【事業活動】

- (1) 地域振興に関する施策の調査研究事業
- (2) 地域の経済活動を活性化させる施策の実施に関する事業
- (3) 地域の名産物及び特産物の開発と販売の支援に関する事業
- (4) 地域振興に資する事業体への投資
- (5) その他当法人の目的を達成するために必要な一切の事業

### 【2017年度活動概要】

会津地域の抱える様々な問題を「観光業振興」、「商工業振興」、「農林水産業」の観点から具体的な支援策を講ずるための企画を行っています。



尾瀬を源流とし、会津地方を流れる只見川



会津の名刹・福満虚空藏菩薩圓藏寺

## （２）インターンシップ&中学生職場体験

当社では、夏季、冬季の休みを利用した「1 dayインターンシップ」研修を実施しております。2016年度は53名と多くの学生の方々に参加いただきました。研修内容はその名の通り1日で「システムエンジニアにとって一番大事なことは何か？」が体験できるグループワークが中心です。参加いただいた学生さんからは「システムエンジニアの仕事のイメージが具体的に変わった」、「時間に対する考え方が印象に残った」など、嬉しい感想をいただきました。

また、地元郡山市内の中学校からの依頼による職場体験も実施しています。ここ数年3校から各校5名程度の生徒さんが参加し、コンピューターのセキュリティに関することや、LEGOロボットを操作するプログラミング体験から、働くことや、会社について様々なことを学んでいただいています。将来、エフコムと一緒に働けることを楽しみにしています。



名刺交換練習の様子



プログラミング体験の様子

### (3) 「おもてなし認証」の取得

2017年1月から登録開始となった「おもてなし規格認証2017」に当社も6月23日登録いたしました。

この制度は、国内のサービス産業事業者のサービス品質を「見える化」するために経済産業省が創設した制度です。

外国を旅行したとき、現地の人や店員さんに笑顔で親切にされると、その国のことが一瞬で好きになります。逆にブスッと不愛想にされると、その国のことがちょっと嫌いになる。出会ったその人で、その国の印象が決まってしまうことがあります。エフコムを訪れるお客様に接するときの私たち社員は、その意味で

#### 全員、エフコム代表なのだ

と思います。

エフコムの企業理念に「お客様にとって高品質な商品やサービスを提供する」とあるように「エフコム品質のコミュニケーションも提供できるはず！」という気持ちで『おもてなし規格認証2017』に、登録しました。



『おもてなし規格認証2017』登録証

### (4) アピオフェスティバルで模擬店参加 (大好評！)

弊社会津オフィスがある、会津若松卸商団地協同組合（会津アピオ）にて、2017年9月に第11回アピオフェスティバルが開催されました。

毎年弊社から模擬店を出店しており、今年は「型抜き」を行いました。

子どもからご老人まで、幅広い世代の方に大好評で、「子どもの頃、良くお祭りでやったな〜」「懐かしい！」など、聞こえました。

今後も地域社会貢献の為、活動を続けて行きます！

#### エフコムブースの様子



遊ぼうべこ〜！



## (5) 福島県民球団「福島ホープス」の応援

2015年、BCL (Baseball Challenge League) において、福島県初のプロ野球県民球団である「福島ホープス」が新たに参入しました。その福島ホープスは、「子供たちが福島で育ち、笑顔を増やしてもらいたい」「野球というスポーツを通じて望みを持ち、地域の交流も活発になってほしい」等子供たち、地域の方々が「野球を通じて」色々な「望み」をもっていただけの一助になればという思いで「望み：HOPE」と命名しています。

当社では、その思いに賛同し、福島県の復興と未来へ向けて、「望み」をもって応援しています。

### エフコムマッチ (冠試合) の様子

#### エフコム応援団 選手と一緒に『記念撮影』



2017年のエフコムマッチ  
勝ちました！

《キッズスターター (10名)》  
ホープス選手と一緒に元気にグラウンドへ向かいます！

いやー、打撃好調！  
岩村監督も代打で活躍しました。

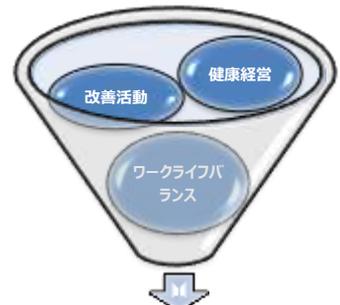


# ■人を活かす取り組み

## (1) 「働き方改革」始動

働き方改革推進会議を社内に設置し、全社員参加の活動を展開しています。目標は「働きたい会社」です。社員（働く人）起点で改革・改善を進め、魅力ある百年企業を目指し取り組んでいます。

また、AIやIoTの進化により、ワークスタイルは大きく変革するものと考えます。最新のICTソリューションと自社の取り組みから、お客様の改革に貢献することも重要な使命と捉えています。



働き方改革【全社活動】



(働き方改革推進会議 事務局より)

働き方改革の成果や事例を、たくさん広報できるように頑張ります！

## (2) 「KAIZEN」活動

### ◆活動目的

- ①現場業務・運営活動の於いて、常に問題意識を持ち、対策（改善）を行う文化を定着させる
  - ②活動内容の発表を行うことで、現場のモチベーションUP、意欲向上を目指す
- ▣上記内容を目的に2016年度より活動を開始

### ◆活動内容

- 2016年 6月：「KAIZEN」計画発表会開催 エントリー14組の取組計画を発表
- 2016年12月：「KAIZEN」活動中間報告会開催 各取組内容の中間報告
- ▣ゲストとして富士通エフ・アイ・ピー様取より取組事例を紹介
- 2017年 7月：「KAIZEN」活動報告会開催 各取組結果を報告し、優秀な取組を表彰

最優秀取組



FCOM DCソリューション部

発表者



## (3)「F-BRAINS」

2月24・25日、エフコム@アイデアソン「第2回F-Brains」を開催しました。

今回は「エフコムグループを日本一誇れる会社にしよう！」をテーマに熱い意見を交わしました。

講師として株式会社アポロガス代表取締役社長篠木雄司様をお招きし、「**日本一の元気エネルギー供給企業の人づくり**」についてご講演いただきました。

「福島が笑えば世界が笑う」をモットーに、人の生きる目的は「まわりの人をしあわせにすること」という価値観に共感できる人を求めていること、それらを軸としたユニーク且つ工夫された様々な取組についてお聞きすることができました。



基調講演中の篠木社長

### ～日本一誇れる会社って？～

#### チーム『HARU (HAPPY Return Unit)』

☆笑顔で帰れる職場づくり☆ 毎日仕事を終えて笑顔で帰れる  
幸せな職場が日本一誇れる会社

#### チーム『BLUE』

☆従業員エンゲージメント向上☆  
「優秀な従業員の流出対策」&  
「個のパフォーマンスが発揮できる  
環境作り」が急務



#### チーム『やる気スイッチここにある隊』 チーム BLUE

☆得意なこと・やりたいことの見える化☆  
得意分野での実力発揮からモチベーションの向上へ

#### チーム『Forest』

☆地域貢献☆ まずは身近な家族や地域の方々に誇れる企業  
(地域密着型イベント・ボランティア参加)



チーム Forest



チーム HARU



チーム やる気  
スイッチここにある隊



熱く総評を語るJobs

誇りま賞：チーム「Blue」

即興演劇賞：チーム「HARU」



皆様、お疲れ様でした！

## (4) 衛生委員会活動

### ◆ 過重労働防止活動

毎月開催される衛生委員会において、毎月の基準労働時間から40時間を超える方には、状況報告・負担度の判定・健康状態の確認・負荷軽減対策の提出を個人と上職者に求めています。

これにより、長期間・長時間労働に繋がりそうな方を早期に発見し、早期に対処することで、過重労働者を出さないよう努めています。

### ◆ 健康管理

毎年、健康診断の受診率100%を基本とし推進しています。健康診断の結果、所見の有る方に対しては対処するよう働きかけを行うとともに、全社員が自己の健康管理意識を高めるよう産業医と連携しながら推進しています。

### ◆ 健康増進施策

自分の健康は自分で管理すべきものですが、なかなか難しいといった話を良く耳にします。衛生委員会では、体も心もリフレッシュし健康増進に繋がるようなイベントができないか模索し、手軽にどこでもできる歩くイベントを開催しています。

「健康ウォーク」と称し2013年初回開催から現在に至るまで裏磐梯、あづま総合運動公園近隣、三春滝桜近隣等6回開催しました。毎回ご家族を含め多くの参加者が集まります。自然の中で10キロ近いウォーキングは、仕事から離れ、和やかに、且つ適度な汗をかくことの楽しさを肌で感じることで健康を考える良い機会に繋がることを期待しています。また、2014年からはグループ企業全体で開催している「ソフトボール大会&芋煮会」にも協賛し、日頃見られないファインプレーや珍プレーの続出に大いに沸き、芋煮に舌鼓を打ちました。

健康増進施策は「継続が大切」と考え、名物イベントとしてこれからも頑張っていく予定です！



### ◆ 献血

献血される方が減少し続けているという話を聞いていました。衛生委員会では、社会貢献と自己の健康状態の把握にも繋がる献血をオフィスで行いました。「献血カー」が直接オフィスに来てもらい、多くの社員の協力を得られました。献血するためには、問診を受けて一定の基準を満たさなければなりません。問診で献血対象者から外れた方も、次回に向け健康改善を意識する良い機会になりました。

## (5) 社員教育制度

企業が安定した成長を続けるうえで、社員の育成は最も重要な課題と考えております。当社では、一人一人の能力向上と組織力強化を目的に、「人材育成WG」の活動をベースに、社員教育制度を検討し、実践しています。

### 【教育方針】

- ◆企業理念と行動指針に基づく自発的行動と統制のとれた組織体作りを目標とする
- ◆ベンチャー精神溢れる優良企業への発展を目指す
- ◆上司・部下が行動、能力、業績の目標を共有し、それらを成長指標とする
- ◆自己啓発と自立型人材の育成を目指す

### 【各種育成施策の体系化】

- ◆スペシャリストの育成  
現場主導で市場と個人の適性を踏まえた育成方針の策定と実施  
職種別に選択と選抜による教育の実施
- ◆階層別の育成  
個々の能力向上を目指し、階層別に必要なスキルを体系化して実施
  - ①マネジメントスキル
  - ②指導育成スキル
  - ③ビジネススキル
  - ④ヒューマンスキル
- ◆新人教育  
配属前の集合教育と配属後トレーナーとのマン・ツー・マンでのOJT教育  
OJTトレーナーへのスキルアップ研修
- ◆自己啓発  
ビジネススキルアップの為にeラーニング環境の提供  
各種資格取得支援  
自己の生涯生活設計・キャリア設計への支援

### 【社内教育制度体系図】



### 【継続的な課題：企業と人（社員）とのあるべき姿を目指して・・・】

- ◆一人一人の自己啓発による成長意欲が会社の経営基盤の安定と成長をもたらすこと
- ◆終身雇用を前提として、社員が幸福で仕事における満足感が得られること
- ◆適材適所と公平な評価を実現すること
- ◆常に実務における問題の発掘と課題を認識し、自然体でPDCAが実践できること

## (6) 資格取得状況

当社の社員は自己啓発により個人の目標を達成すべく、様々な資格取得に挑戦しております。また、当社は受験料補助・講習会受講料負担・合格一時金支給など、社員のキャリア形成にも有益な各種資格の取得支援を積極的に行っています。

### 【資格取得状況】

※2017年10月現在

資 格 名		人数	資 格 名		人数
情報処理技術者試験	システム監査技術者	1	メーカー系資格	オラクルマスター(ゴールド/シルバー)	20
	ITストラテジスト	2		シスコ技術者認定(CCNA,CCNP)	7
	システムアーキテクト	2		Vmware認定	4
	プロジェクトマネージャー	4		マイクロソフト(MCP)	33
	ネットワークスペシャリスト	9		オラクル認定 java® プログラマー	5
	データベーススペシャリスト	7		中小企業診断士	1
	情報セキュリティスペシャリスト	31	その他	米国P M I 認定P M P	1
	ITサービスマネージャー	2		医療情報技師能力検定	11
	応用情報技術者	34		教育情報化コーディネーター	7
	基本情報技術者	144		I C D S キャリア・コンサルタント	1
	情報セキュリティマネジメント	12		キャリア・コンサルティング技能士	1
	ITパスポート	122		ITIL Foundation(ファウンデーション)	22
監査 / 審査 / その他	ITコーディネーター	2		CompTIA	40
	内部監査士(補)	1		ネットワーク情報セキュリティマネージャー(NISM)	1
	プライバシーマーク審査員(補含)	5		.Com Master(ドットコム シング ルマスター)	3
	I S O 2 7 0 0 1 審査員(補)	3		電気通信工事担任者(総合/デジタル/アナログ)	7
	I S O 9 0 0 1 審査員(補)	1	電気工事士(二種)	4	
	I S O 1 4 0 0 1 審査員(補)	1	日商簿記検定(1級/2級)	30	
	公認システム鑑定人(補)	1	秘書検定(1級/2級)	13	
	公認情報セキュリティ監査人(補)	1	ビジネスキャリア検定	30	

## (7) 次世代育成支援企業の認証取得

“仕事と家庭の両立支援をはじめ、仕事と生活のバランスが取れ、働きやすい職場環境作りに向けて総合的な取り組みを行なっている企業”として「福島県次世代育成支援企業」（「仕事と生活の調和」推進企業）の認証を取得（2006年4月）しました。

認定基準は「仕事と家庭の両立支援」「パート労働者の公正な処遇」「男女共同参画」についての取り組みに対し、一定の基準を満たす企業を認証するというもので、育児・介護休職の規定整備や取得状況、正社員とパート労働者の処遇バランス、女性従業員の活躍推進などの項目が評価の対象となっています。



### <エフコムが特に優れていると評価された点>

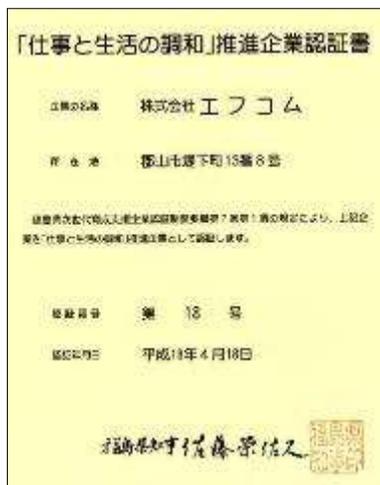
- 育児・介護休業中の従業員への情報提供や、休業終了後の原職復帰
- 週に1度“ノー残業デー”を設定
- 社内報において従業員の結婚や出産を大きく取り上げるなど、家庭との距離が近い職場環境作りを行なっている点

認証のメリットとしては、企業名や主な取り組み内容などを県のホームページ等で積極的に広報されるほか、認証企業であることを求人票等に表示することで企業のイメージアップや人材確保に活用できる点や、県が行なう物品調達において、入札参加者を指名する場合、優先的に指名される優遇措置の対象となることなどがあげられます。

今後とも、働きやすい職場環境作りに向けた総合的な取り組みを推進して行きます。

### 【福島県次世代育成支援企業認証制度】

本制度は、仕事と育児が両立できる職場環境づくりに取り組んでいる中小企業、及び少子高齢化社会を見据えて、育児に加えて介護との両立や男女が共に働きやすい環境など仕事と生活の調和がとれた働き方ができる職場環境づくりに総合的に取り組んでいる企業を県が認証し、当該企業が社会的に評価される仕組みをつくることにより、企業の自主的な取り組みの促進を図り、次代の社会を担う子どもの健全な育成及び労働者の福祉の増進に資することを目的に、2005年5月から施行されました。



# ■信頼への取り組み

## (1) 品質向上 (ISO9001) への取り組み

当社のシステム部門は、ソフトウェア開発サービスを行う情報サービス業として、品質の重要性を認識し、2001年10月に品質マネジメントシステム(QMS)を制定しました。

2002年6月には、財団法人日本品質保証機構のJQAマネジメントシステム登録の公表と登録マークの使用の認定を受けていましたが、2010年3月に日本検査キューエイ株式会社に認証機関を変更し、新たにJICQAマネジメントシステム登録の公表と登録マークの使用の認定を受けています。

登録組織 : 地域・医療ビジネス本部  
医療ソリューション部、第一ソリューション部、第二ソリューション部  
登録範囲 : 顧客仕様書に基づくソフトウェアの設計・開発及び導入(要員派遣・システム保守・アウトソーシング業務は除く)  
登録事業所: エフコム本社  
関連事業所: 福島JAオフィス  
株式会社エフコムマーケティング(ソリューション事業本部)

なお、品質マネジメントシステムの目的は、当組織のプロジェクトおよびプロセスに対して適用され、品質の作り込みと維持活動を継続的に行うことにあります。



## (2) 情報セキュリティマネジメント (ISO27001) への取り組み

当社のシステム運用部門は、2000年に情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)を制定し、2003年9月にISMS(Ver2.0)の認定を取得、2007年9月にISO27001への移行認定を受けました。認定規格は当社のDCソリューション部、公共ソリューション部のシステム運用に係わる会津データセンター、福島データセンターの業務、要員に適用され、認定に基づく情報セキュリティマネジメント活動を日々行っています。

登録組織 : 会津データセンター、福島データセンター  
登録範囲 : 受託計算サービスの運用、ホスティングサービスの運用、ハウジングサービスの運用、クラウドサービスの運用

ISO27001を取得することでお客様及び取引先から当組織に対する情報セキュリティについて信用・信頼が強化され、現在の継続的な受注に結びついています。



## (3) ITサービスマネジメント (ISO20000) への取り組み

当社福島データセンターのシステム運用部門は、2014年にITサービスマネジメントシステム(ITSMS)を制定し、2015年2月にISO20000の認定を取得しました。ISO20000は、お客様のニーズとビジネス要求に合致したITサービスを提供するための一連の仕組みが備わっていることを証明する認証資格です。

登録組織 : 福島データセンター  
登録範囲 : 福島データセンターにおけるハウジングサービス

ISO20000を取得することで、当社ITサービスに対するお客様の信用・信頼が強化され、現在の継続的な受注に結びついています。



## (4) 個人情報保護（Pマーク）への取り組み

当社は、1998年10月に個人情報保護マネジメントシステム（PMS）を制定し、1999年2月には、一般財団法人日本情報経済社会推進協会のプライバシーマーク付与の認定を取得しました。

個人情報保護マネジメントシステム（PMS）は、当社の取締役、正社員、契約社員、パート・アルバイト及び派遣社員を含む全従業者に適用され、全社の部署、拠点が対象となっています。

当社では、情報サービス業を営む企業として個人情報保護の重要性を社会的立場から認識し、個人情報保護マネジメントシステム（PMS）を策定し、管理・運用体制を確立させ社員個人情報を含む事業の用に供している「個人情報」全てについて適切な保護に努めています。



当社は、受託業務、パソコン・サーバ等の情報機器販売及び保守、アウトソーシングサービス、パソコン教室など情報サービス業として、大量の個人情報を取り扱っており、早くから個人情報保護の重要性を認識し、プライバシーマークを取得することで社内管理体制の更なる強化をねらいとしています。

また、最新の改正個人情報保護法などへの対応をいち早く行い、顧客満足の向上を目指します。

### ◆個人情報保護方針の要約◆

#### ①個人情報の取得・利用

当社では、パソコン・サーバ等の情報機器販売及び保守、アウトソーシングサービス、パソコン教室等の業務等で個人情報を取得又は利用する場合、その利用目的を特定し、通知又は公表することでご本人に明らかにするとともに、利用目的の達成に必要な範囲で取り扱います。

#### ②法令の遵守

個人情報保護にあたり、個人情報の取り扱いに関する法令、国が定める指針その他の規範を遵守いたします。

#### ③個人情報の適正な管理方法

収集した個人情報は、正確かつ最新の状態に保ち、個人情報への不正アクセス、紛失・破壊・改ざんおよび漏洩等を防止するための措置を講じます。

#### ④苦情及び相談等への対応

当社では「お客様相談窓口」を設置し、本人からの個人情報の取扱いに関する苦情、相談等をいただいた場合は、すみやかな対応に努めます。

#### ⑤個人情報マネジメントシステム（PMS）の継続的改善

当社は、個人情報を取り扱う単位毎に管理責任者を置き、PMSを実践・遵守してまいります。また、定期的に行なう監査報告等を参考にしてPMSの継続的改善に努めます。

これにより、顧客及び取引先から当社に対する信用・信頼が維持され、継続的な受注に結びついています。

1997年より会社全体で取り組んできた、プライバシーマークの取り組みにおいて、個人情報保護レベルの維持・向上に努め、制度の普及推進に貢献した、功績に対して、JIPDEC（一般財団法人日本情報経済社会推進協会）より、表彰されました。





# ■環境保全への取り組み



## (1) 環境活動

### ◆ 環境マネジメントシステム ISO14001への取り組み ◆

当社では、2005年3月に本社地区及び会津地区の事業所において、国際規格であるISO14001に基づく環境マネジメントシステムを構築し、認証取得をいたしました。現在は福島地区の事業所も追加しこの環境マネジメントシステムの運用並びに継続的な改善活動を行っています。

## << 環 境 方 針 >>

### <理念>

株式会社エフコムは、地球環境の保全が人類共通の最重要課題であることを認識し、国際社会の一員として、地球環境の保全に努め環境に考慮した企業活動を行い、良い地球環境を将来に伝える活動に努力いたします。

### <方針>

株式会社エフコムの本社〔インターネットステージ、TSビルを含む〕及び会津iDC及び福島データセンター（以下当社という）はソフトウェア開発、システムインテグレーションサービス、クラウドサービス、アウトソーシングサービス、IT機器販売・保守サービス、サプライ品販売、PC講習会等の教育支援サービスを行っております。当社の行う事業活動のすべての面で、国際社会の一員として、地球の自然環境への負荷低減と自然豊かで美しい福島県の環境保護に広く貢献することを目指し、以下の項の方針のもと、環境保全活動を推進していきます。

1. 環境方針を当社の組織で働く又は組織のために働くすべての人（以下全従業員という）に周知徹底し、創意工夫をすることで環境保全へ努めます。
2. 地球環境汚染の予防及び環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
3. 当社の事業活動または製品及びサービスにおいて、環境負荷低減に考慮し、以下の項目を重点的に推進いたします。
  - ・紙等の用紙購入量を削減し省資源の推進
  - ・電気の使用量を削減し省エネルギーの推進
  - ・廃棄物量の削減及びその分別回収の徹底と資源リサイクルの推進
  - ・グリーン調達の推進
  - ・情報技術を活かした環境にやさしい製品及びサービスの提供
4. 当社は全従業員が環境に関する意識向上を図り、環境目的及び目標を設定し、1年に1回以上レビューを行い、必要があれば改訂を行います。
5. 関連する法令、及び当社が同意したその他の法令、条例、規制、協定などの順守に努めます。
6. 当社に係る協力会社・取引会社なども含め広く社外にも公開いたします。

2014年11月1日  
株式会社エフコム  
常務取締役事業支援本部長  
野地 泰

## ◆ 当社のISO14001認証取得事業所 ◆

○2017年度現在（3拠点）

- ・本社（インターネットステージ、TSビルを含む）
- ・会津iDC
- ・福島データセンター

### <登録証>

ISO 14001:2004・JIS Q 14001:2004

登録番号：EC04J0512

登録日：2005年3月16日

### <登録範囲>

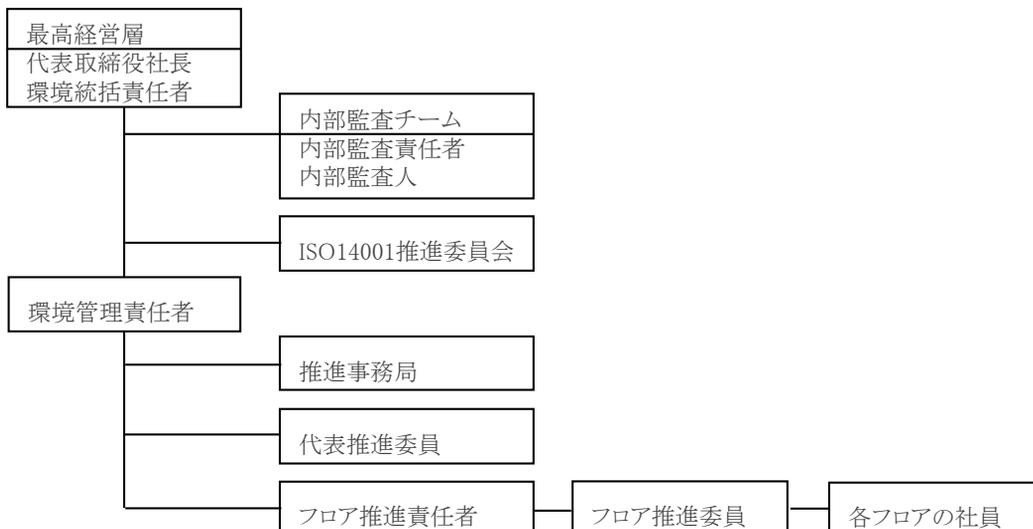
登録組織全域におけるソフトウェア・システム開発、システムインテグレーションサービス、クラウドサービス、アウトソーシングサービス、IT機器販売・保守サービス、サプライ品販売、PC講習会等の教育支援サービス



〔審査機関：株式会社日本環境認証機構（JACO）〕

## ◆ 推進体制 ◆

当社では、代表取締役社長と環境統括責任者を最高経営層とし、環境管理責任者のもとに環境方針、目的・目標等の全社的な活動計画を検討・作成し、各事業所のフロア推進責任者、フロア推進委員がこれに基づき、各フロアごとに実施計画を作成し実施しています。



## ◆地球温暖化防止のための国民運動（チャレンジ25キャンペーン）への取り組み◆

地球温暖化防止への世界的な取り組みとして、様々な対策が推進されています。

日本は、この人類共通の責務を果たすため、2020年までに1990年比で25%温室効果ガスを削減するという中期目標をコペンハーゲン合意に基づき国連気候変動枠組条約事務局に表明しています。

温暖化防止のための国民的運動を『チャレンジ25キャンペーン』として、2010年1月より新たな活動が展開されました、当社においても『チャレンジ25キャンペーン』に継続して参加しています。その1つとして、「COLL BIZ」「WARM BIZ」活動を推進し、エフコムグループ全体で節電を中心に取り組んでいます。

更に、「smart move」活動に対しても取組を進めています。



COOLBIZ

◆実施期間の延長 及び スーパークールビズの実施  
全社一斉 5月1日 ~ 9月30日



WARMBIZ

◆ウォームビズの実施  
全社一斉 12月1日 ~ 3月31日

### 【節電の取り組み】

- ①定時退社日（毎週水曜日）の励行
- ②昼休み時の消灯
- ③長時間離席時のPC電源OFF
- ④未使用PCのコンセントを抜く
- ⑤エアコン設定温度を28度（夏）または20度（冬）を基準にする
- ⑥エアコン稼働の効率化
- ⑦休日に出勤する場合は、あらかじめ上司に報告し了承を得ることを徹底する（電気使用の効率化を図る）

「移動」を「エコ」に。



smart  
move

◆自動車の利用を工夫しよう！  
エコカーへの乗換推奨  
エコドライブの推奨 ⇒ 安全運転

### 【“「移動」を「エコ」に”の取り組み】

- ①業務車両をエコカーへの乗換を推奨（ハイブリッド車等）
    - ・2012年度：「1台」エコカー導入率（33%） [1/3台]
    - ・2013年度：「8台」エコカー導入率（50%） [8/16台]
    - ・2014年度：「2台」エコカー導入率（33%） [2/6台]
    - ・2015年度：「7台」エコカー導入率（100%） [7/7台]
    - ・2016年度：「1台」エコカー導入率（10%） [1/10台]
- ※エコカー率（34%） [19/56台]

- ②「安全運転講習会」を実施し安全運転意識（エコ運転）を啓蒙

## (2) 2016年度環境活動実績



2016年度の活動とその実績は下記の通りとなっています。目的・目標に対しての成果は、おおむね良好な結果となりました。

2016年度の目標/実績					
活動目的			目標	実績	評価
地球温暖化防止	電気使用量の削減	事務所系	35万kwh	32万kwh	😊
		センター設備系	324万kwh	263万kwh	😊
天然資源の枯渇	用紙購入量の削減		104万枚	97万枚	😊
オゾン層破壊防止	危険物管理 (ハロン/フロンガス等)		適正な維持管理	異常なし	😊
水質/土壌汚染防止	危険物管理 (重油)		適正な維持管理	異常なし	😊



目標達成



目標未達成

### ◆過去3年間の実績 (電気使用量・用紙購入量)

活動実績		2014年度	2015年度	2016年度
電気使用量	事務所系	32万kwh	32万kwh	32万kwh
	センター系	166万kwh	255万kwh	263万kwh
合計		198万kwh	287万kwh	295万kwh
用紙購入量		84万枚	95万枚	97万枚
廃棄物排出量 [参考]		12t	12t	12t

### (3) 2017年度環境活動目標



2017年度はISO14001第4回更新審査後の中期活動計画（3ヶ年）1年目となります。今年度は昨年度までの活動（電気使用量の削減、用紙購入量の削減、廃棄物の適正管理、危険物管理等）の一層の強化に加え、これまで以上に、データセンター（会津iDC・福島データセンター）への情報資産集中や、部門サーバ及び社給パソコンを含めた、事業所の資源使用の効率化（台数の適正化）および削減に取り組みます。

2017年度の目標			
活動目的			目 標
地球温暖化防止	電気使用量の削減	事務所系	33万kwh以下
		センター設備系	335万kwh以下
天然資源の枯渇	用紙購入量の削減		114万枚以下
オゾン層破壊防止	危険物管理 (ハロン/フロンガス等)		適正な維持管理
水質/土壌汚染防止	危険物管理 (重油)		適正な維持管理
事業運営	情報公開		サステナビリティ報告書の 開示 (1回/年)

#### ◆環境関連法令等の順守

当社が順守すべき国の法律と地方自治体条例等の対応は、下記の通りとなります。

関連法令等名	条 件	順守する要求事項	当社の対応
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	産業廃棄物の排出	産業廃棄物管理票 (マニフェスト) の交付	マニフェストの適正な交付と 期限内回収の徹底
消防法	重油地下貯蔵タンクの設置	危険物設備等の設置許可	重油地下貯蔵タンク設置届 を提出 定期点検の実施
福島県生活環境の保全等に関する条例	ディーゼルエンジンの設置 (4-12騒音)	騒音指定施設の設置の届出	騒音指定施設の設置届を提出

## (4) エフコムの森



### ロケーションの紹介

- 所在地：会津若松市河東町
- 広さ：44.5ha(東京ドームの9.5倍)
- 樹種：針葉樹と広葉樹の混合林

磐梯山の南西山麓のととても静かな場所にあるのが、エフコムの森です。この森の意味は、環境共生というやや難しいテーマではなく、単に社員やその家族の憩いの場として親しんでもらう事にあります。森は針葉樹、広葉樹からなり、小川や沼もあるまさに憩いの場としては最高のロケーションです。

### 柏（かしわ）の木は百年続く企業の守り木

エフコムの森の広葉樹はコナラが多勢を占めます。その中で柏の木も比較的多く、翌年に新芽が出るまで古い葉が落ちない特性から「代が途切れない」縁起物として柏餅に用いられています。端午の節句に柏餅を食べるのもその由縁です。

百年続く企業を目指すエフコムにとっては正に縁起ものであり、大切にしていきたいと思えます。



### 憩いの場と環境維持の為の活動

この豊かな環境を維持するため、有志により森の下草刈りなどを実施し、整備を始めています。

更に、憩い場として、2016年11月には「エフコムの森 やま学校」を開催し、森を楽しみました。



### 水が豊富

エフコムの森には小さな綺麗な小川が流れており、いずれは水芭蕉とホタルが飛び交う環境へ再生したいと思います。ホタルが住む環境を維持する事もかなり大変な努力が必要ですが、皆で頑張ります。

### 木の実が豊富

木の実が豊富なのは森が豊かな証拠です。また、動物達を呼ぶ事になるので自然の回生が働き、更に森が豊かになります。



# ■エフコムのご紹介

## (1) 社内報

社内報「F-r e s h」は、2005年10月の創刊から毎月欠かさず発行しており、2017年で12年を迎えることができました。※社内のグループウェアで公開  
発行するきっかけとなったのは、社員数が300名を超え、業務拠点が“郡山・福島・会津・仙台・東京・大阪”と広域になり、相互理解と連携の必要性を改めて感じたところにありました。  
現在は、グループ企業各社の情報を発信し、企業間の連携に一役買っています。

### <社内報の主な内容>

- ・経営層からのメッセージ（企業のあり方や方針発表等）
- ・先輩からのメッセージ ～ 感孚風動 ～
- ・社内外のイベント情報
- ・社員の一人にフォーカスし、仕事や趣味を紹介するコーナー
- ・Happy Birthday & Weddingコーナー
- ・その他のニュース

1回の発行ページ数は、A4紙面で約10ページ、特集記事掲載時には、20ページにも及ぶこともあります。タイムリーな情報を発信することで、社員間の情報共有や、コミュニケーション活性化のツールとして利用されることを心がけています。

社内報は、入社1、2年目の若手社員が中心となり発行しています。

若手社員にとっては、編集企画に始まり、経営層への寄稿依頼や先輩社員へのインタビュー、校正や原稿起こしなど大変な作業も多い中、「このような機会を頂き、大変さ以上に充実感がある」などの感想も聞こえて来ています。



F-r e s h 2017年10月号  
【第145報】

## (2) テレビCM

### 「基本はいつも人と人」

当社の企業イメージをテレビCMを通じて、お客様をはじめ、すべてのステークホルダの皆様に向けてお届けしています。

社員を起用したCMということもあり、営業が、SEが、お客様を訪問した際に「見たよお～！」とお声掛け頂き、企業イメージを向上させています。



基本はいつも人と人  
私たちエフコムは  
お客様の声に耳をかたむけ最適な  
ソリューションをご提案いたします  
Smart thinking for you  
エフコム

【You Tube URL】

- ①<https://youtu.be/VuTF4sA8hI8>
- ②<https://youtu.be/IGjf7c2fLJw>
- ③<https://youtu.be/rVOJOBbBiXI>

# ■ ビジネスインフォメーション

## Product Service パッケージソフト開発

当社の長年にわたるシステム開発実績で蓄積されたノウハウを提供することにより、短期間でお客様にソリューションを提供いたします。



## Cloud Service クラウドサービス



最先端のICTと長年培ってきた業務ノウハウから生み出されたビジネスプラットフォームです。従来の枠を超えて、お客様の事業革新とビジネス加速をご支援いたします。

## Field Support お客様サポート

コールセンター、カスタマサービスなど、常にお客様の身近な存在でサポートいたします。そしてお客様への安心と満足を提供いたします。



## Business Process Outsourcing 業務アウトソーシング

お客様の業務を定型化し弊社スタッフがお客様に代わり業務運用を担当いたします。お客様は本来の業務に資源を集中する事が可能になります。



## Software Design

### ソフトウェア開発

多くのソフトウェア開発実績を保有します。IoTによるデータ解析やモバイルデバイスの新たな活用など、先端システムへの対応もいたします。



## Information Devices sales Supply sales

### 情報機器／サプライ品販売

PC、タブレット、サーバー等の情報機器を提供いたします。

サプライとなるプリンタトナーや各種PCアクセサリを豊富に品揃え、毎日のオフィスワークをトータルにサポートいたします。

## System Integration 導入システム企画

豊富な業務システムの構築経験を活かし、システムのライフサイクルに基づく最適化をサポートいたします。お客様のニーズにお応えできる専門家集団として、企画・構築・運用をトータルにご支援いたします。



## Security Support セキュリティ対応

日々高度化、巧妙化するサイバー攻撃への対策は、ICTを安心安全に活用していくための大きな課題となっています。お客様のセキュリティ環境が常に最適な状態を維持できるためのご支援をいたします。

## 会社概要

社名：株式会社エフコム F-COM Co.Ltd.  
本社：〒963-8520 福島県郡山市堤下町13番8号  
代表者：代表取締役社長兼COO 瓜生 利典  
設立：1980年9月12日  
資本金：2億7千万円  
売上高：75億4千万円（2017年3月期）  
従業員数：349名（2017年3月31日現在、正社員数）  
関係会社：株式会社エフコムホールディングス  
株式会社エフコムマーケティング

<本報告書の対象範囲>

(環境活動報告対象範囲及び期間)

株式会社エフコムにおける以下の事業所  
本社（インターネットステージ、TSビルを含む）、会津iDC、  
福島データセンター  
2016年4月1日～2017年3月31日

(対象期間)

2016年4月1日～2017年9月30日  
ただし、一部には2016年4月以前、2017年10月1日以降の考  
え方、取り組み、データ等が含まれます。

〒963-8520	福島県郡山市堤下町13番8号
URL	<a href="https://www.f-com.co.jp/">https://www.f-com.co.jp/</a>
発行	2017年11月30日
発行責任者	代表取締役社長 瓜生 利典
企画・編集責任者	常務取締役 河内 美文
発行部署	事業支援本部人事総務部
お問い合わせ先	事業支援本部人事総務部
TEL	024-922-2555
FAX	024-922-2696

